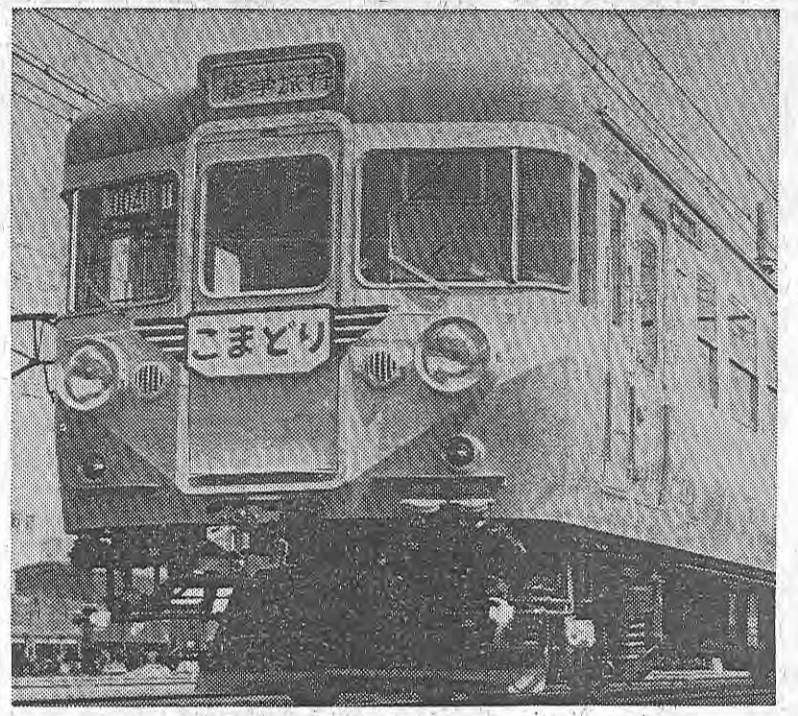


# 10年の歩み



昭和35年4月に誕生した専用電車「こまどり号」

★全修協本部事務局の資料室には修学旅行関係の図書や文獻、資料がびっしりと並んでいる。なかでも貴重な資料はなんといっても折々に撮影した写真であろう。創立以来の移り変わりを永遠にとどめたいものとして、まさに全修協にとっては「文化財」ともいえる。

★まず興味をそそるのは人物写真である。例えば創立総会の写真を見ると、十年前、房々した髪をしていた人が、いまはすっかり白髪になっていたり、顔に皺がよったりしている。でもみんな気持ちは昔と変わらず若々しいのがうれしい。

★修学旅行の記録写真もたくさんあるが、重宝だった生徒も、今では立派に成人しているかと思えば感慨もひとおである。おそろしく大人も、友人同士でうつついた修学旅行の写真を見せると、なつかしく昔をしのぶらしい。

★四本の修学旅行専用電車と二隻の専用船の写真を見れば、いかに「よかつたな」と思う。子どもたちの夢をのぞく交通機関が、われわれの努力で実現したことは終生忘れられることがない。陳情に明け暮れたその苦勞も、いまは懐かしさでいっぱい。

★多くの保存写真のなから今ここに「いんか」を運び出し、全修協十年の記録をさらけだしてみよう。

### 専用電車誕生

修学旅行の安全性と教育性を高めるため昭和三十四年九月、東海三県の教育代表とともに国鉄へ専用電車の建造を陳情。九月月に陳情を結び「こまどり号」が誕生した。全修協の運動でつくられた専用電車の第一号。現在では専用電車四本のほか増結二本を加え、陸上輸送の完璧を期している。

専用電車や専用船の建造は全国修学旅行研究協会のもっとも具体的な運動のひとつとして大きく取りあげられているが、以上のほか全開津々浦々の小、中、高校の修学旅行のための種々々運送をすすめるためにはならぬ問題である。

### 設立総会も 茗溪会館で

昭和三十年六月発足した全修協は同三十二年十一月八日、文部省から財団法人として許可された。その設立総会は今回の十周年記念式と同じ会場の茗溪会館で行なわれたのも意義深い。当日は諸官庁

### 多角的な運動で 全修協の活躍ぶり

全修協とは財団法人全国修学旅行研究協会の略称である。修学旅行の教育性を高めるため、安全快速に、しかも全員が参加できるように、全国四十六都道府県支部を中核として文部省や各都道府県および市町村教委、小中高校長会をはじめ各種教育団体、国鉄、私鉄などの輸送機関や関係団体、会社と協力して、修学旅行の実態調査、修学改善のための研究発表会などを開催している。

さらに参考資料の収集、文獻の刊行などのほか、修学旅行委員会や研究組織の結成についても、とくにさいきんの交通事情の悪化により集団による旅行が非常に困難となっている現状に鑑み、全修協は総力をあげて「安全輸送」のため運送を行なうとして、すでに専用電車や船舶の建造に成功をおさめたが、この運動もなお強力におすすめていく覚悟である。

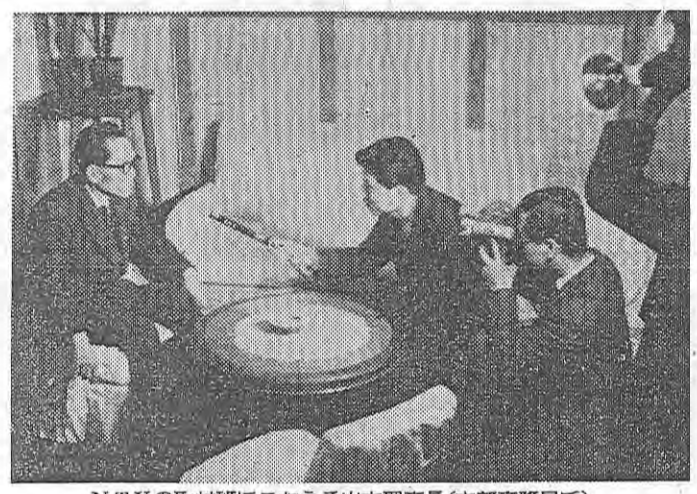
### も快よく マスコミに

絶えず活動を続ける全修協だけに修学旅行についての報道と解説にはいつもその名前が登場する。この写真は山本理事長が日本テレビのインタビューに応じているところ。この電波は全国に流れて好評を博した。

このほか新聞、通信、ラジオからの取材も多く、修学旅行がいかに多くの課題を抱えているかがわかる。また、全国組織をもつ全修協は修学旅行に関するのくわしい調査や資料があるのでニュース・ソースとしても報道関係から認められているわけである。

### 絶えず研究 会もひらく

全修協では年度ごと研究発表会を指定し、あらゆる角度から修学旅行の研究を行なっているが、同時に各地で随時研究会を開いている重要な学校行事の一つであるだけに、東まる先生の表情もきこ。



NTVの取材班にこたえる山本理事長(本部事務局で)



山形市立第一中で開かれた修旅研究会

## 祝 財団法人 全国修学旅行研究協会 創立10周年

500万人が育った  
**学 図 社** の教科書  
好 学 社

学校図書株式会社 11 学図  
株式会社 好学社 37 好学

東京都港区芝三田豊岡町8 電話 東京452局5481

祝 《全国修学旅行研究協会》10周年

教科書とともに60年  
業界のパイオニアとしての  
良心と誇りをもって  
よりよい教科書をめざす

### 東書の教科書

- 小学校用9教科65点発行
- 中学校用9教科26点発行
- 高等学校用11教科21点発行
- 教科書準拠各種補助教材発行

**東京書籍株式会社**

東京都北区堀船一―三三 〇九―九二―二八  
支社 札幌・仙台・大阪・福岡  
出張所 函館・名古屋・広島



昭和39年3月就航した専用船「ふたば丸」

**修旅専用船**  
**も二隻誕生**

本州と九州、あるいは本州と四国を結ぶ航路は修学旅行でも重要なコースであるが、この海上輸送を安全、快適にするため、先ず近畿地区高等学校長代表による修学旅行委員会が昭和三十二年に本会と協力、関西汽船株式会社に対し、瀬戸内海汽船の建造を要請、翌年四月に二〇四四トンの収容人員八百名の「わかば丸」が誕生した。

「わかば丸」は主として神戸、別府間で大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山各府県の修学生を輸送している。

また昭和三十九年四月には福岡、大分、佐賀、熊本など九州中四国地区中高校側の要望にこたえて同じく関西汽船株式会社の手によって「ふたば丸」が別府―神戸間に就航した。両船はそれぞれ年間二十万、三十万人を輸送、教育性の高い海上の移動教室の役目を果たしている。

# グラフで見る

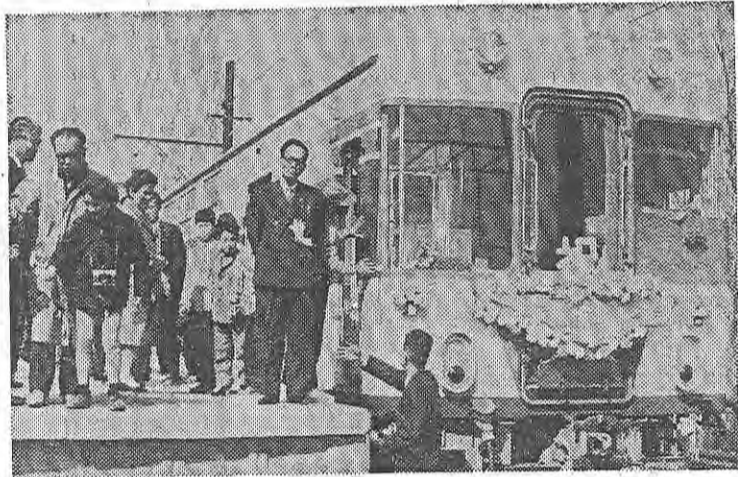


研修旅行に参加する教職員（別府駅で）

## 修旅改善に成果のあと

**年中行事の**  
**研修旅行**

いまの教員の年中行事となった教職員の研修旅行はすでに十回を数えた。本年も香海、台北や沖繩などを加え十一コースで行なわれたが、年々参加人員も増え、すでに総計四万を突破した。



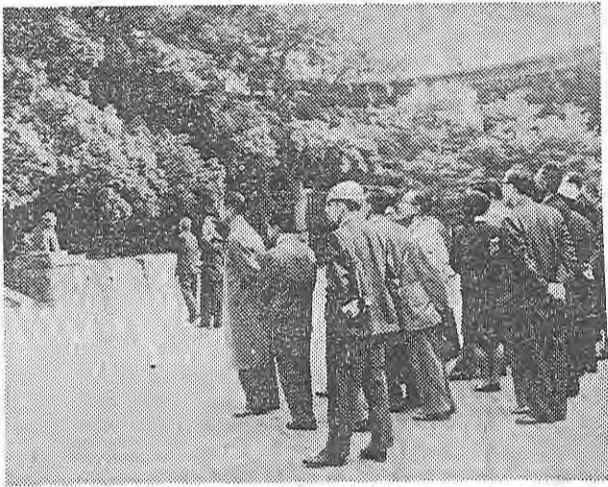
小学生のために近鉄がつくった二階建ての電車「あおぞら号」

**学童用には**  
**あおぞら号**

近畿、東海の学童のたのしみになった「あおぞら号」は近鉄が誇る世界最初の二階建ての電車である。昭和三十六年誕生したこの「あおぞら号」は子どもたちの夢をいっぱいさせて、いまも大阪と伊勢間を走っている。車と車のあいだのマシク・ドアなど科学の粋を集めたこの電車は、修学旅行用としては完璧だ。

さかんな図  
 書出版活動

全修協の調査研究部では年間を通じていろいろな仕事をこなし、よりよい修学旅行を実施するための基礎資料を収集整理した。研究会や同協会の開催、あるいは諸報などをまとめて出版している。すでに「修学旅行の問題点―修学旅行白書」などは教育界から注目を浴びたもの。また、各都道府県教委協力のもとに「修学旅行の立案計画」を毎年刊行し、修学旅行の立案計画に大きな寄与をしている。そのほか各方面の利用者が多い全修協の図書はかくれたベスト・セラーとなっている。



修旅コースの下見をする愛知県校長先生たち（鎌倉で）

**新コースの**  
**開拓も課題**

修学旅行のコース研究は学校にとりては重要な課題。そのために時に応じて実地調査も行なわれ

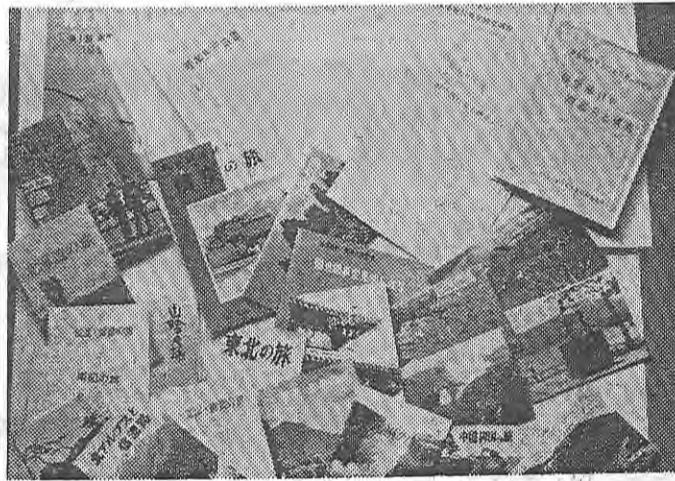
ばならない。新コースの開拓も全修協の事業の一つ。この写真は昭和三十九年に行なわれた愛知県の中学校校長による鎌倉方面の下見調査の一場面。

**本部事務局**  
**と二事務所**

現在の本部事務局は神田の学生街にある。四階建てのきれいなビルに二階、ここに事務局長以下職員が精力的に勤務している。この本部のほか大阪市と名古屋市それぞれ事務所がある。



千代田区西神田にある本部事務局



出版関係でも大活躍する

# 祝 財団法人 全国修学旅行研究協会 創立10周年



## 大日本図書株式会社

だれでも一度は使ったことがある  
 大日本の教科書

本社/東京都中央区銀座1~5 T(561) 8671代表  
 大阪出張所/大阪市北区梅田ビル506号 T大阪(381) 0182  
 福岡出張所/福岡市荒戸1丁目1~1 栄泰ビル T福岡(75) 4714

## 伸びゆく子どもたちのための 教出の教科書

- 小学校用・中学校用 全科目 発行
- 高等学校用 主要科目
- 各科教師用指導書・教授資料 完備

### 教育出版株式会社

本社・東京都千代田区神田神保町2の10  
 支社・札幌/大 阪/福 岡

17  
 教 出